

【6.思考力】 頭の中の情報を整理したり、結合して、新しい関係を作り出す能力

⑱四季の伝達ゲーム

【実施人数】	10人～20人
【ルール】	テーマを決めて、答えていく 例) 春の花の名前、夏の食べ物、秋の果物、冬の遊び・・・
【作業療法士からのコメント】	道具も必要なく手軽に取り組みます。テーマに沿ってできるだけたくさん挙げていくのがポイントです。 ひまわり、あさがおなど挙げた答えを平仮名から漢字にしてみても思考力を使います。春、赤、球根など3つのヒントで何かを当てるといったクイズ形式でも実施ができます。

⑳〇〇県と言えば？

【必要物品】	県名を書いたカード、箱、紙
【実施人数】	10人～
【ルール】	1、チーム分けをする 2、県名を書いたカードを入れた箱の中から、1枚カードを取ってもらう 3、カードに書かれた県の有名なもの、例えば場所や人や特産物等を紙に書きだしていく 4、たくさん書いたチームが勝ち
【作業療法士からのコメント】	勝敗が決まった後に、実際にその県の有名なものや特産物を調べてみると新たな発見があるかもしれません。 有名なものや場所、特産物をヒントに何県かを当てるという風に逆のやり方でも連想ゲームのようになって思考力を使います。



㉑ボール送りしりとり

【必要物品】	ボール（手のひらに置ける大きさ）1個
【実施人数】	2人～15人
【ルール】	1、輪になって座り、隣の人にボールを送りながらしりとり（テーマを決める）をする 例) 植物の名前、総菜、動物の名前・・・ 2、途中で右回り、左回りの指示を出すリーダーを決めておく
【実施時の注意点】	・ボールは、つかみやすくするため空気を抜いておく ・ボールを送る人は、次の人の手のひらの上に置く
【おすすめポイント、アレンジ方法等】	まわす方向を途中で逆にしてみると盛り上がる 頭と手を同時に使うことで、脳の活性化につながる
【作業療法士からのコメント】	体と頭を同時に使うのはとても効果的です。隣に回すものをボールから輪に変えたり、足で輪投げの輪をまわしながらやってみるのもいいでしょう。制限時間を設けて最後持っていた人が負け、チーム戦でたくさん進んだ方が勝ちなどのやり方もできます。

②②創作料理屋	
【必要物品】	食材カード、調味料カード
【実施人数】	2人～
【ルール】	<ol style="list-style-type: none"> 1、参加者数に応じてチーム戦か個人戦が決める 2、食材カードと調味料カードを分けて、裏返しに置く 3、リーダーが、それぞれのカードから〇枚選ぶことを伝える 4、選んだカードで何が作れるか考える 5、作る料理の手順を考える
【実施時の注意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの発想を否定しない ・けがをしないよう気を付ける
【おすすめポイント、アレンジ方法 等】	考えた料理を実際に作り、みんなで食べてみる
【作業療法士からのコメント】	<p>とても面白いアイデアで、料理が苦手な人でもいろいろな発想が出てくるかもしれません。</p> <p>季節の食材、ご当地の食材などを入れて、一緒に料理を作ったり、食べたりすることで社会交流にもつながります。</p>